

経営比較分析表（令和4年度決算）

北海道 西興部村

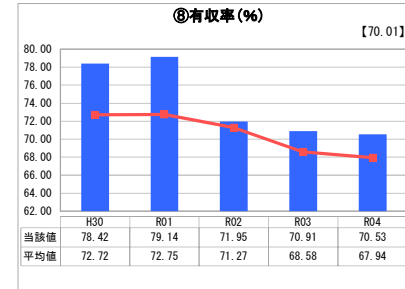
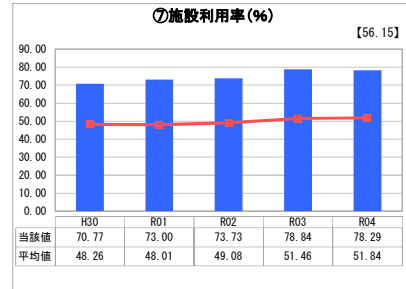
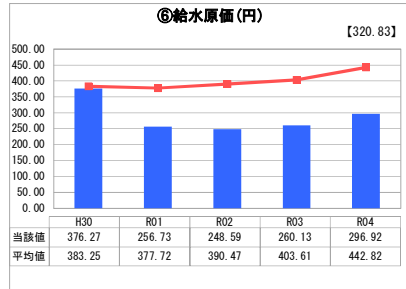
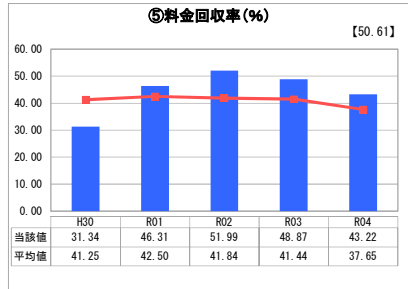
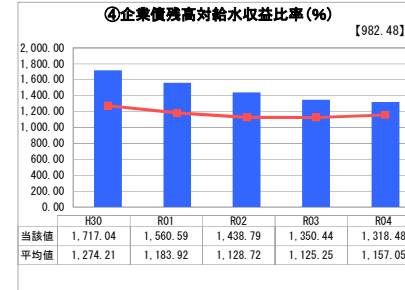
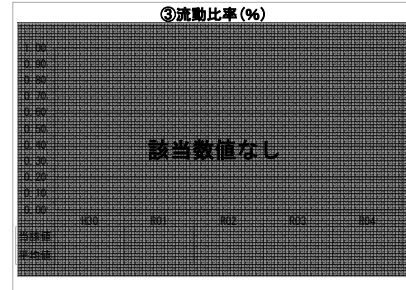
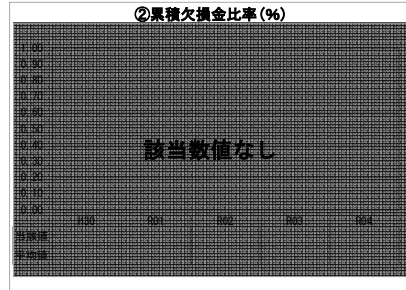
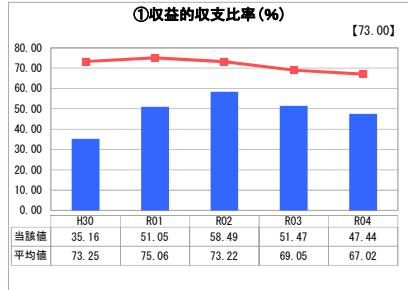
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	水道事業	簡易水道事業	D4	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	該当数値なし	96.08	2,970	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
1,030	308.08	3.34
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
980	9.52	102.94

グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

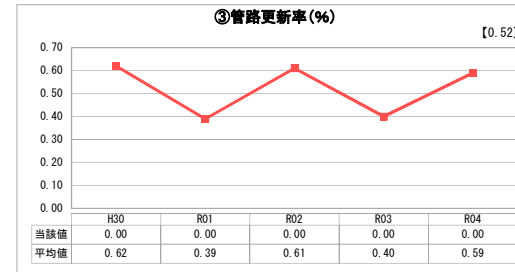
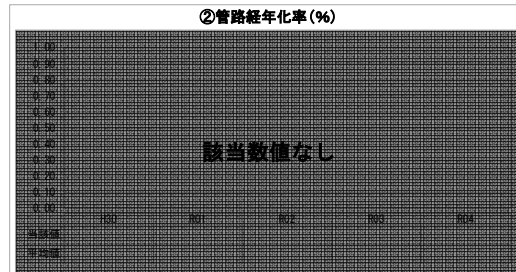
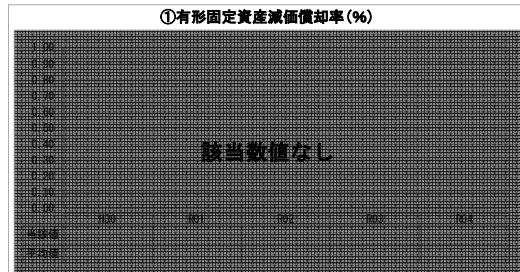
1. 経営の健全性・効率性について

平成17年度、18年度にて区域拡張工事に伴い、浄水場等の施設の新設工事を実施した。
 企業債残高については、主に上記工事に伴うものであり、依然として収益的収支比率、企業債残高対給水収益比率は良好な水準とはなっていないため、今後においては更なる経費の見直しをした上で使用料の改定も視野に入れていかなければならない。
 令和4年度については総収益、総費用共に概ね横ばいとなっているが、地方債償還金の増及び有収率の低下に伴い料金回収率の低下及び給水原価が増となっている。
 簡易水道事業を運営するには、本来であれば料金収入をもって賄う事が当然であるが、小規模自治体であり、料金収入だけで賄うと住民の負担増となってしまうことから、一般会計繰入金が必要不可欠となっているのが現状である。

2. 老朽化の状況について

昭和46年当時の管路が法定耐用年数50年を経過しているが、更新費用の面から漏水等の判明次第修繕で対応しているのが現状である。
 また、浄水場施設における電気設備等が設置後20年に差し掛かるため、計画的な更新が必要となり今後の費用増大が予測される。

2. 老朽化の状況



全体総括

今後においても常に経費等に見直しを行い無駄なく適正な維持管理に努めると共に有収率改善のため漏水調査を強化し向上を目指す。また、広域化の検討も引き続き行い経営改善に努める。